

# 1 級 学科試験問題

1. 試験時間 60分

2. 問題数 50題 A群（真偽法25題）及びB群（多肢択一法25題）

3. 注意事項

- (1) 携帯電話、腕時計型端末の使用は禁止します。（電源を予め切り、バック等にしまって下さい）
- (2) 机の上には、受検票及び筆記用具以外のものを置いてはいけません。
- (3) 電子式卓上計算機、その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (4) 試験官の指示があるまで、この表紙を開けてはいけません。
- (5) 試験官の指示に従って試験問題のページ数を確認してください。  
もし、異常があった場合には黙って手を挙げて下さい。
- (6) 解答用紙はマークシートです。必ず鉛筆又はシャープペンシルを使用して下さい。
- (7) 解答用紙には、等級、受検番号、氏名を必ず記入し、受検番号の欄は、受検区分と受検番号を必ずマークして下さい。
- (8) 試験官の指示に従って、試験を開始して下さい。
- (9) 問題は、A群（真偽法25題）及びB群（多肢択一法25題）の50題です。
  - ① 真偽法は、問題の内容が正しいか誤っているかを判断し、解答用紙に正か誤のどちらか一つを記入します。
  - ② 多肢択一法は、問題に対応する選択肢の中で、正解と思う選択肢を一つ選び、解答用紙に記入します。
  - ③ 解答用紙の注意事項を必ず確認し、A群、B群の解答欄を間違わないように記入して下さい。
- (10) 試験中、質問があるときは、黙って手を挙げて下さい。ただし、漢字の読み方を含めて、試験問題の内容についてはお答えできません。  
また、退室後は試験が終了するまで再入室ができません。
- (11) 試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて試験官の指示に従って下さい。試験開始後30分間は退出できません。
- (12) 試験中にトイレに行きたい場合は、黙って手を挙げて試験官の指示に従って下さい。
- (13) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、試験官の指示に従って下さい。
- (14) 試験終了後、解答用紙は提出して下さい。問題用紙は持ち帰って下さい。

■ A群（真偽法）

1. ほこりの粒子が  $1.0\sim 15\mu\text{m}$ （マイクロメートル）以下のものを吸入すると、人間の上気道に付着する。
2. 建築物清掃の除去対象物は、大きく生物的物质、化学物質、非化学物質の3種類に分けられる。
3. ノロウイルスは、熱、アルカリ、有機溶媒などに強い特性が有るが、酸には弱いため、一般的には次亜塩素酸ナトリウムで消毒する。
4. 建築構造を人体にたとえると、皮膚・筋肉が意匠、骨格が構造、内臓・血管などが設備に相当する。
5. 浄化槽に流入した汚物は、消毒槽、腐敗槽、酸化槽の順序で、微生物の浄化作用により浄化されるので、影響を与えるような洗剤などを流し込まないようにする。
6. 便所および洗面所に使われる内装仕上げ材や衛生器具設備は、吸水性が高く、耐薬品性に富み、耐摩耗性に優れ、衛生的なものでなければならない。
7. タイルカーペットのパイル糸の素材は主にナイロンが使われており、耐摩耗性は高い。
8. 合成洗剤は被洗浄体を傷めることはない。
9. ポリッシャーの回転部は、減速歯車構造となっている。
10. 建築物内で発生するほこりや粉状部質の粒子は、概ね  $5\mu\text{m}$ （マイクロメートル）以下である。
11. 人間の皮膚から分泌される皮脂は疎水性物質ではない。
12. 清掃のゾーニングにおける「ファネルエリア」とは、ロビー等の歩行量が多く激しい場所である。
13. 建築物の内外を清掃の立場から区分するのに、通常は、共用区域、管理用区域、外装・外周区域の3つの区域で取り扱う。
14. 作業計画を作成する手順は、まず作業人員を算出した上で、次に作業仕様書の内容を把握する。
15. 作業計画とは、作業手順書に基づいた、対象となる清掃作業の工程表である。
16. 作業の点検評価の範囲は、汚染度の軽度な個所を選択する。

17. 建築物の床以外の部位に求められる清掃品質は、美観維持を重点とする。
18. 廃棄物などの発生を抑制するとともに再使用、再生利用を進めることにより減量化することを3R（スリーアール）という。
19. 産業廃棄物管理票（マニフェスト）の保管期間は3年間である。
20. 災害発生の間接的原因として、不安全な状態の物的原因と不安全な行動の人的原因があげられる。
21. 塩素系の漂白剤と酸性洗剤を混合すると、有毒なガスが出るため絶対に避けなければならない。
22. 感染症の発生には、感染源・感染経路・宿主の三要因が揃っていることが必要である。
23. 消毒薬の殺菌能力は、使用濃度、温度、作用(接触)時間により決まる。
24. ノロウイルスは冬季に流行し、突然に嘔吐するのが特徴である。
25. 建築物衛生法（略称）における特定建築物は、建築物の用途と延べ面積により定める。

■ B群（多肢選択法）

1. 建築物清掃の除去対象物に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
  - イ アレルギー症の原因となる抗原をアレルゲンという
  - ロ 建築物内から発生する廃棄物の処理方法については、建築物衛生法(略称)で規定されている
  - ハ 真菌とはカビとダニの総称である
  - ニ 汚れには、ネズミ・ゴキブリその他小動物の排泄物などもある
  
2. 建築物清掃の目的として、最も不適切なものはどれか。
  - イ 衛生的環境の確保
  - ロ 耐候性の向上
  - ハ 美観の向上
  - ニ 保全性の寄与
  
3. 建築物衛生法(略称)で定めた「建築物環境衛生管理基準」の施行令で管理項目として、最も不適切なものはどれか。
  - イ 空気環境の調整
  - ロ 採光および照明の管理
  - ハ 給水および排水の管理
  - ニ 清掃およびネズミ・昆虫などの防除
  
4. 建築構造に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
  - イ 軸部とは、柱・梁・壁など土台と屋根との間の骨組み部分をいう
  - ロ 基礎とは、上部構造からの荷重を地盤に伝える部分をいう
  - ハ 地業とは、木工事の仕上げ部分をいう
  - ニ 開口部まわりとは、窓・出入口・換気口などの建築物外部に向かって開けた部分をいう
  
5. 排水通気設備に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
  - イ 排水には、汚水・雑排水・雨水排水の三系統がある
  - ロ 配管は、立管と横走管とからなっている
  - ハ トラップの基本形を大別すると、管トラップ・ドラムトラップ・わんトラップがある
  - ニ 通気管はトラップの封水がサイフォン作用や正圧などで破封されるのを防止する
  
6. 温水洗浄便座タイプの洋式便器にない部位はどれか。
  - イ ノズル
  - ロ 脱臭フィルター
  - ハ 給水用止水栓
  - ニ ドレンタンク
  
7. 硬性床材に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
  - イ 大理石の主成分は炭酸カルシウムである
  - ロ 大理石は花崗岩より硬質である
  - ハ セメントテラズは大理石の碎石をモルタルで固めたものである
  - ニ セラミックタイルは、陶磁器質タイルと呼ばれている

8. 陽極酸化皮膜を施したアルミニウム建材の腐食原因に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
- イ アルカリ性洗剤による腐食
  - ロ 大気汚染物質による腐食
  - ハ 異種金属との接触腐食（電触作用）
  - ニ 溶剤による腐食
9. 床材に対する洗剤の適用に関する語句の組合せのうち、最も不適切なものはどれか。
- イ コンクリート — 弱アルカリ性洗剤
  - ロ リノリウム — 弱アルカリ性洗剤
  - ハ ビニル系床材 — 弱アルカリ性洗剤
  - ニ 大理石 — 弱アルカリ性洗剤
10. 床維持剤に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
- イ ポリマータイプは、不揮発性成分として、合成樹脂などを主原料とする
  - ロ 油性フローポリッシュは、ろう状物質を石油系溶剤に溶解又は分散させたものをいう
  - ハ ワックスタイプは、不揮発成分として、ろう状物質を主原料としたものをいう
  - ニ フロアシーラーは、乾燥後の皮膜が物理的、化学的方法により、容易に除去される
11. 高速バフマシンに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
- イ 回転数は、毎分 1,000～2,500 回転である
  - ロ 動力源は、コード式、バッテリー式、プロパンガス燃焼方式がある
  - ハ 美観品質が高いレベルで保つことができるウエット方式マシンである
  - ニ バフ用パッド繊維素材には、ポリエステル繊維が主に使用される
12. ビニル系床材の清掃方法等に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。
- イ ビニル床シートは可塑剤の影響をあまり受けないため、床維持剤の密着不良は起きない
  - ロ 新しいビニル床の場合は、速やかに本格的な洗浄作業を行い、その後床維持剤を塗り重ねる必要がある
  - ハ ドライバフ法は、スプレー液を使用せずポリッシャー・高速バフマシンに研磨剤を含まない専用パッドを使って磨く方法である
  - ニ スプレークリーニング法で使用する機材は主に 1,000 回転以上の高速バフマシンを使用する
13. 便所や洗面台の作業上の注意点に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
- イ 温水洗浄便座や操作部分はプラスチック製で耐摩耗性が強く傷つけることがない
  - ロ 便所の臭気は尿石等が溜まって発生するので、リムや目皿の裏側も注意して清掃する
  - ハ 落書きは発見次第速やかに報告した上で、洗剤又は有機溶剤などを用いて除去する
  - ニ 作業中はできるだけ使用禁止にせず、使用禁止の場合は他の場所を案内するよう表示する

14. 作業計画作成にあたって、把握しなければならない項目として、最も不適切なものはどれか。
- イ 必要人員の割り出し
  - ロ 作業場所の特徴
  - ハ 建築物の竣工年月日
  - ニ 使用する資機材の種類
15. ホテル清掃に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
- イ 最も重要なポイントは玄関及びエントランスホール的美観性である
  - ロ カーペットの洗浄方法としては、カーペットの風合いを損なわない再汚染の少ない洗浄方法が好ましい
  - ハ 作業計画作成にあたって留意する点は、病院や店舗と違って営業時間が長いことである
  - ニ ゾーニングについては一般に、パブリックエリア・宴集会エリア・客室エリア・外周エリアの4つの区域に分けられる
16. 作業管理と現場責任者業務に関する語句の組合せのうち、ついて、最も適切なものはどれか。
- イ 従事者に対する作業の指示・指導＝作業予定表
  - ロ 作業の実施＝指示・指導
  - ハ 作業の終了（手直し）＝報告
  - ニ 予定された作業＝作業手順書
17. 組織品質の点検で、現場管理品質の点検項目には含まれないものはどれか。
- イ 作業計画
  - ロ 苦情処理体制
  - ハ 組織管理体制
  - ニ 委託管理マニュアル
18. 廃棄物処理の原則に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
- イ 減量化
  - ロ 安定化
  - ハ 効率化
  - ニ 安全化
19. ごみ集積所の貯蔵と処理の留意事項に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
- イ 2～3日分のごみを収容する広さが必要なため、処理室と保管室は同じでよい
  - ロ ごみの搬出に不便でない位置に設置し排気、洗浄、消毒のしやすい構造とする
  - ハ ごみの貯蔵は、分別して中間処理や搬出時の処理に都合がよいようにする
  - ニ 吸い殻などの火災になりやすいものは別容器とし、必ず水を注いでおく
20. すべり災害防止対策に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
- イ 床面と足の裏（靴）の摩擦係数を小さくすることである
  - ロ 作業そのものをすべりの危険性の少ないものに変える
  - ハ 通路を有効に活用するため、床面は広く使用し、不必要なものを周りにはおかない
  - ニ 2次災害を防ぐため、作業服のポケットには鋭利なものは入れない

21. 災害発生の人的原因に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
- イ 機械装置等の指定外の使用
  - ロ 安全装置の不履行
  - ハ 作業環境の欠陥
  - ニ 不安全なままで放置
22. 感染経路と主な疾患の組合せに関する語句の組合せのうち、最も不適切なものはどれか。
- イ 直接接触感染 — 大腸菌
  - ロ 間接触感染 — レジオネラ肺炎
  - ハ 飛沫感染 — 髄膜炎
  - ニ 空気感染 — 結核
23. 消毒薬の殺菌能力について、最も不適切なものはどれか。
- イ 濃度が高くなると殺菌効果は上がる
  - ロ 有機物や汚れがあると殺菌効果が下がる
  - ハ 一般的には 20℃以上で使用する
  - ニ 消毒薬により異なるが、最低でも 3 分以上は必要である
24. 清掃方法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
- イ 奥から入口へ、上から下へ風上から風下へ作業を進める
  - ロ タオルやモップのラーグは必要数量用意し、汚れたら交換する
  - ハ 清掃で汚れを除去しても、消毒効果は変わらない
  - ニ 季節も考慮して作業を進める
25. 廃棄物処理法（略称）における関係者の責務に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。
- イ 国民の責務
  - ロ 清掃業者の責務
  - ハ 事業者の責務
  - ニ 行政の責務

# 1級 学科試験問題

## < 正 解 >

| A群 真偽法 |    |
|--------|----|
| 設問     | 解答 |
| 1      | 正  |
| 2      | 誤  |
| 3      | 誤  |
| 4      | 正  |
| 5      | 誤  |
| 6      | 誤  |
| 7      | 正  |
| 8      | 正  |
| 9      | 正  |
| 10     | 誤  |
| 11     | 誤  |
| 12     | 誤  |
| 13     | 誤  |
| 14     | 誤  |
| 15     | 誤  |
| 16     | 誤  |
| 17     | 誤  |
| 18     | 正  |
| 19     | 誤  |
| 20     | 正  |
| 21     | 正  |
| 22     | 正  |
| 23     | 正  |
| 24     | 正  |
| 25     | 正  |

| B群 多肢択一法 |    |
|----------|----|
| 設問       | 解答 |
| 1        | ハ  |
| 2        | ロ  |
| 3        | ロ  |
| 4        | ハ  |
| 5        | ニ  |
| 6        | ニ  |
| 7        | ロ  |
| 8        | ニ  |
| 9        | ロ  |
| 10       | ニ  |
| 11       | ハ  |
| 12       | ハ  |
| 13       | イ  |
| 14       | ハ  |
| 15       | ニ  |
| 16       | ロ  |
| 17       | ニ  |
| 18       | ハ  |
| 19       | イ  |
| 20       | イ  |
| 21       | ハ  |
| 22       | ロ  |
| 23       | イ  |
| 24       | ハ  |
| 25       | ロ  |